

平成 25 年度実験・実習技術研究会 in イーハトーブいわて 参加報告

機械・環境建設系技術班 川口 隆

主 催：国立大学法人 岩手大学
開催期間：平成 26 年 3 月 5 日～3 月 7 日
開催場所：岩手大学 学生センターA 棟

1. はじめに

本技術研究会は、国立大学法人、独立行政法人国立高等専門学校機構、大学共同利用機関法人、私立大学等の技術系職員が、日常業務で携わっている「ものづくり」を含む「実験・実習」、「地域貢献」、「環境・安全衛生」等、広範囲な技術的教育研究支援活動について発表する研究会である。通常の学会とは発表の趣を変え、日常業務から生まれた創意工夫や失敗談も重視し、技術系職員の技術力向上と交流を図ることを目的としている。

平成 25 年度は岩手大学にて開催され、「原点を見つめよう!技術はひとつづくり!」のスローガンのもと活発な討論と情報交換がおこなわれた。今回、口頭発表および東日本大震災後の被災地視察ツアーに参加したことについて報告する。

2. 報告事項

研究会参加者数は 490 名、発表件数は 174 件（口頭発表 72 件、ポスター発表 102 件）であり、本学からは筆者を含め 2 名が参加した。開催期間は従来 2 日間の日程が通例であるが、3 日目には東日本大震災の被災地である岩手県三陸沿岸部の視察会（シンポジウム）が企画され、158 名の参加があった。筆者は機械、土木、建築分野において「コンクリートコア供試体による橋梁診断の事例報告」と題し、失敗談を交えながら口頭発表をおこなった。活動的な多数の参加者と交流することで良い刺激を受け、前向きに業務に取り組む姿勢の大切を学んだ。



写真－1 田老地区防潮堤見学

3. おわりに

開催校・岩手大学実行委員会の方々による企画ならびに運営が本当に素晴らしく、あらためて深く感謝申し上げます。視察会参加にあたり、震災から 3 年経ったという思いであったが、実際に現地へ足を運ぶと、まだ 3 年しか経っていないのだと強く感じた。岩手大学では全学組織である三陸復興推進機構を中心に『岩手の復興と再生に』オール岩大パワーを掲げ、復興を強力に進めていると伺った。その成果が結実し、一日でも早い復興につながることを切に願っています。

4. 謝辞

このたびの研究會参加にあたり、ご配慮頂きました大賀技術部長をはじめとする関係各位に厚く御礼申し上げます。